クローズアップ科学

「乳房再建」　乳がん全摘後の選択肢　技術向上で生きる希望に

2022/10/30 06:00 加納 裕子 有料会員記事
ライフ 科学 からだ クローズアップ科学

反応

国内で女性が罹患（りかん）するがんとして最も多い乳がん。だが、全摘出手術後に、失われた乳房を新しく作り直す「乳房再建」についてはあまり知られておらず、乳房再建率は約１７％にとどまっている。１０月は乳がん月間。乳房を失うことで喪失感に苦しむ女性も少なくなく、専門医は、希望を持って生きるための選択肢になり得るとしている。

保険適用で潮目が変わる

女性の乳がんの生涯罹患リスクは約１０・９％（がん研究振興財団「がんの統計２０２２」から）。４０代後半から６０代後半が罹患のピークとなる。一方で、比較的早期に発見されたステージⅠ、Ⅱの段階であれば１０年生存率は８０％以上と、罹患後の人生が比較的に長いことも特徴だ。

がんを摘出することで失われた乳房を再建する手術には主に３種類がある。①シリコン製の人工乳房（インプラント）を使う手法②本人の背中やおなかの組織を移植する手法③本人のおなかや太ももなどから吸引した脂肪組織を注入する手法－だ。以前は本人の組織を移植する手法のみが公的医療保険適用だったが、平成２５年からインプラントを使う手法にも保険が適用されるようになった。脂肪注入は自費診療となる。

乳房再建を専門とする大阪大大学院医学系研究科形成外科学の冨田圓一准教授は「インプラントを使う手法が保険適用されたことで潮目が変わった。再建率が上がり、全国の病院で手術が行われるようになり、技術レベルも向上した。今では２０代から７０代後半まで、幅広い方が乳房再建を選択している」と話す。

インプラントか自分の体の組織か

背景には、乳がん手術自体への考え方の変化があるという。大阪医科薬科大乳腺・内分泌外科の岩本充彦（みつひこ）特任教授は「乳がんの手術には全摘出と部分切除があるが、適用を逸脱して部分切除を行うと、局所再発率が上がることがある」と指摘。「術後の見栄えのために無理に部分切除にするのではなく、全摘出できちんとがんを取ったうえで、乳房再建をするケースが増えている」と説明する。

では、実際の再建手術はどのように行われるのか。

インプラントを使う手法では、まずエキスパンダー（組織拡張器）を大胸筋の下に挿入し、６～８カ月かけて皮膚と筋肉を徐々に伸ばす。その後、エキスパンダーをインプラントに入れ替え、乳房再建を完成させる。

がんの摘出手術の際にエキスパンダーを挿入することもできる。人工物のため温かみに欠けるが、入院期間が短く済むという利点があるという。

一方、本人の組織を移植する場合は、背中やおなかなどの皮膚と筋肉、脂肪組織を切除し、胸に移植する。組織を切除した場所に傷痕が残り、入院期間も長くなるが、自然な柔らかさや温かみのある乳房が再建できるとされる。

このほか、おなかなどから吸引した脂肪組織を胸に注入する方法もある。冨田氏によると、インプラントを使う手法と本人の脂肪を注入する手法を併用することで、再建された乳房の質を高めることも可能だという。

乳がんと診断されてから全摘出手術まで数カ月しかなく、再建について検討する時間が持てないという人もいる。冨田氏は「乳がん手術のときにエキスパンダーを入れておいてゆっくり考えることも可能。後から再建することもできる」と話す。まずは再建という選択肢を知っておいてほしいと呼びかける。

生きる希望になるケースも

冨田氏によると、「乳がん治療で大変なときに、さらに体にストレスをかけることになるのでは」と家族が心配するケースも。なぜ、再建という選択肢が必要なのか。

乳房再建手術について啓発するＮＰＯ法人「エンパワリング　ブレストキャンサー」理事長の真水(ますい)美佳さん（６３）は平成２０年に両側乳がんに罹患し、一時は治療や手術をせずに天寿を全うしようとまで思い詰めた。だが、医師から「乳房再建という方法がある」と言われ、前向きに治療を受けようと気持ちが変わったという。

真水さんによると、乳房再建を選択する理由は人それぞれだ。「自分らしく生きるため」という人もいれば、「娘と一緒に温泉に行くため」という人もいる。左右のバランスが崩れて肩が凝ったり、胸パットを使うのが煩わしいなどの不便さが理由という人もいる。逆に、そうしたことは気にならず、乳房再建を必要としない人もいる。真水さんは「正しい情報をもって決められる社会になってほしい」と願う。

岩本氏は「がんと診断されると、仕事も趣味も家庭も諦めなくてはいけないと思う人が多いが、毎年のように新しい薬が開発され、以前なら根治が難しかったケースでも治る人がいる。ポジティブな気持ちを持つことが大切」と強調。その上で「早期発見に勝るものはない」として改めて検査を受けるよう呼びかけた。（加納裕子）

特集・連載： クローズアップ科学

反応

産経主催DXセミナー/経理業務のデジタル化を専門家が解説。 広告
大阪大谷大学ゼミナール探訪　特色ある4学部のゼミを一挙紹介！ 広告

ランキング
1時間 24時間 1週間
1 【ハロウィン】ハロウィン、緊迫の当日　渋谷、月曜も混雑続くか
2 【経済２４時】「ポスト黒田」で浮上する利上げ　住宅ローン地獄のリスクも
3 【ＳＡＩＴＡＭＡ珍奇ツアー】伝説のオートレストラン跡地の「鉄剣タロー食堂」　魅惑の異世界、再び　埼玉・行田市
4 バスク試合中に客席倒れこむ　グリーンアリーナ神戸、けが人なし
5 福島知事に内堀氏３選　現新一騎打ち制す
6 【歴史シアター】「邪馬台国」成立前夜に消えた巨大銅鐸の謎
7 【花田紀凱の週刊誌ウォッチング】（８９７）小室さん合格　『新潮』の変わり身よ
8 ４４２年ぶりの天体ショー　１１月８日に皆既月食と天王星食が同時に起こる
9 パソナの淡路島移転から２年　見えてきた成果と宿題
10 【びっくりサイエンス】キャビアが安価に　幻の超雌チョウザメ生産成功　近畿大

会員限定記事

【から（韓）くに便り　黒田勝弘】タモリが教えた対馬の価値
2022/10/31 08:00 国際 朝鮮半島

【正論】侵略を許した世界の対露反応　青山学院・新潟県立大、名…
2022/10/31 08:00 コラム 正論

【歴史シアター】「邪馬台国」成立前夜に消えた巨大銅鐸の謎
2022/10/31 06:00 ライフ 学術・アート

【産経抄】１０月３１日
2022/10/31 05:00 コラム 産経抄

質問権行使へ急ぐ基準作り　苦心する「恣意性排除」
2022/10/30 17:44 ライフ くらし

【日曜経済講座】戦略物資・コメで「攻めの農業」　食料安保は新…
2022/10/30 11:00

【学芸万華鏡】倍率２０００倍も　大激戦の文藝誌新人各賞を読む
2022/10/30 08:00

【経済２４時】「ポスト黒田」で浮上する利上げ　住宅ローン地獄…
2022/10/30 07:00 経済 金融・財政

【クローズアップ科学】「乳房再建」　乳がん全摘後の選択肢　技…
2022/10/30 06:00 ライフ 科学

【産経抄】１０月３０日
2022/10/30 05:00 コラム 産経抄

会員限定記事のニュースをもっと見る

トップ > ライフ > 科学

社会
事件・疑惑
事故・火災
地震・災害
裁判
政治
地方自治
政局
政策
選挙
国際
アジア
中国・台湾
中東・アフリカ
国際問題
朝鮮半島
欧州・ロシア
米州
経済
IT
プレスリリース
人事
新商品
産業・ビジネス
産経ネットショップ
金融・財政
スポーツ
MLB
その他
ゴルフ
サッカー
ラグビー
格闘・相撲
競馬
野球
エンタメ
ライフ
からだ
くらし
トラベル
囲碁
学術・アート
将棋
教育
本
環境
皇室
科学
訃報
その他
主張
正論
産経抄
コラム
入試
フェムケア・フェムテック
WIRED
GQ JAPAN
パラスポーツ
地方
産経WEST
学ぼう産経新聞
会員トップ
申込
産経ID

©2020-2022 The Sankei Shimbun. All rights reserved.